

特定領域研究「地球深部スラブ」総括班会議(第一回)

日時:平成16年8月27日13時~16時

場所:地震研究所第三会議室

出席者:入舩、歌田、小河、金沢、川勝、塩原、末次、中田、中久喜、浜野、広瀬、深尾、藤井、見延、吉沢

議事メモ

1. 経過報告(深尾)

担当学術調査官の見延氏の紹介があった。
昨年の準備状況および採択までの経緯の説明があった。
ヒアリング資料に基づき、領域の内容の説明があった。

2. 事務局報告(歌田)

事務局の運営体制が説明された。
副班長の役割(総括班会議への代理出席,計画研究の推進補佐)が説明された。
総括班会議を年2~3回開催し,特に各計画研究が孤立しないように連携をはかる努力が必要であることが確認された。
広報及び研究集会について概略の説明があった。

3. 各班報告(Powerpoint file を事務局に提出)

5カ年計画見直し
本年度および来年度計画(公募研究を含む)
準備状況

4. 全体討議

計画としての整合性・連携体制が重要で,研究項目を横断するような研究から科学的新展開につながるような成果を目指すことが確認された。

5. 今後の運営方針

(総括班会議)
年2~3回程度、必要な時期に開催する。
(研究集会)
領域内の連携のためにも,中味の濃い研究会の開催が必要。
5年間の研究集会開催日程(事務局案)を微修正の上認めた。
合同大会にセッションを登録することになった。ただし、レギュラーセッション

「地球深部科学」とは調整が必要。

計画の3年目と5年目(最終)に国際研究集会を開催する。

(広報)

広報(ホームページ, ニュースレター)についての事務局案を承認した。

各計画研究ごとに研究内容を紹介するHPを作成すること。

ニュースレターを毎年発行する。第1号は11月末原稿締めきり。

特に, 一般への成果の還元と, 中高・大学生などへの情報発信が重要である

ことが指摘された。

6. その他

(追記) 公募研究の実施についての方針

研究項目 A01 および A02 では、各計画研究が実施する観測や既存の観測網から得られるデータの解析に独自の発想で取り組む研究を、年度あたりの申請額150万円程度を上限として計8件程度を採択する予定である。研究項目 A03 については、高圧科学の分野で計画研究と連携し領域全体への貢献が期待できる研究を、年度あたりの申請額200万円程度を上限として3件程度を目安とする。なお、研究項目 A03 については、計画研究力(大谷代表)に関する公募研究を優先的に扱うことで領域代表者および計画研究代表者の間で合意されている。研究項目 A04 では公募を行わない。